

327
922

天正六年一月

配付蠶種に
関する注意書

岐阜縣立原蠶種製造所



始



大正六年一月

配付蠶種に関する注意書

岐阜縣立原蠶種製造所
同 大井支所

327-922

緒言

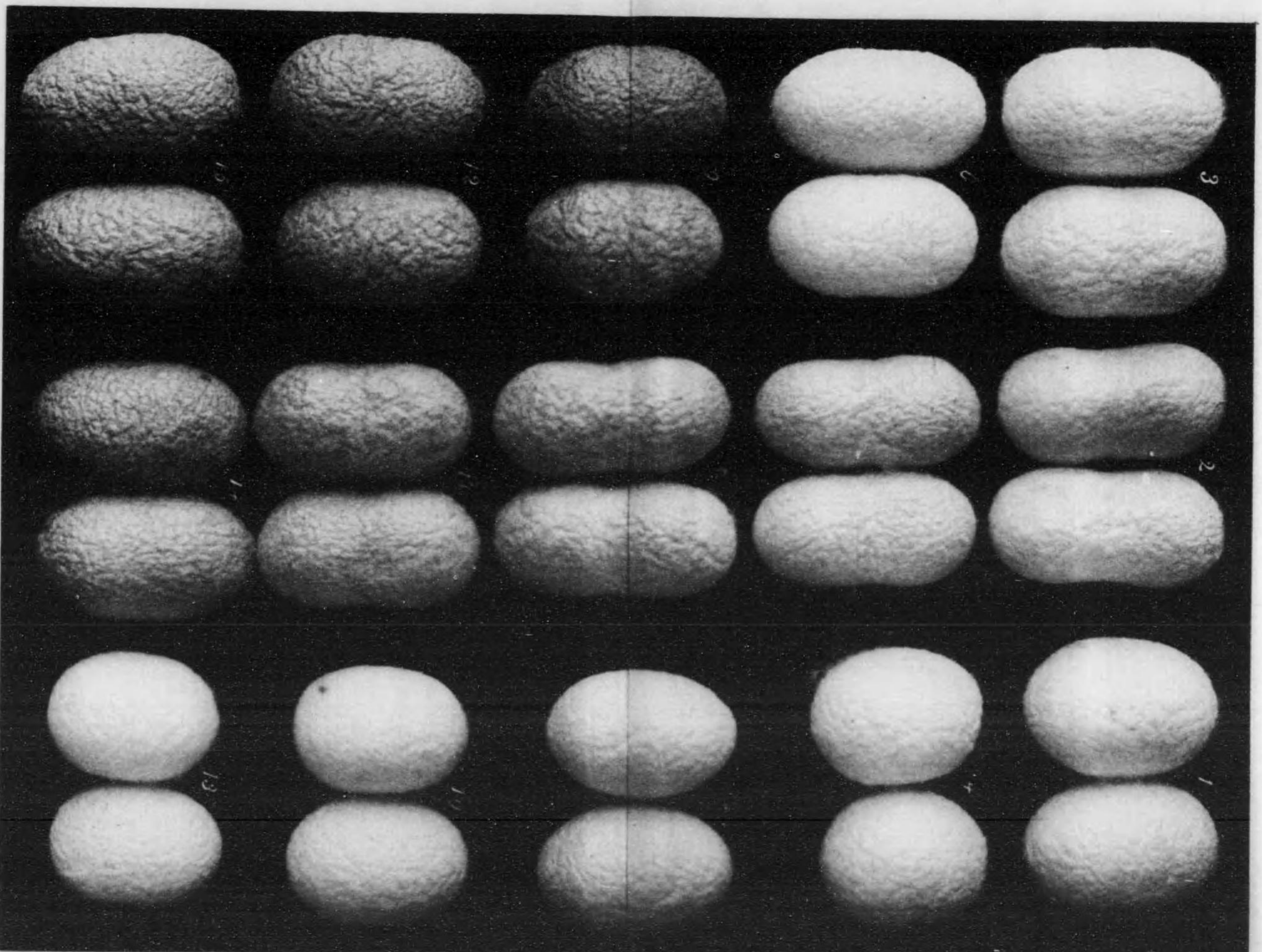
本書は大正五年度に本所並に大井支所に於て製造配付したる原蠶種の性状飼育成績及び種の製造飼育上注意の要點と其の成績等を摘録したものである

大正六年一月

岐阜縣立原蠶種製造所
同 大井支所

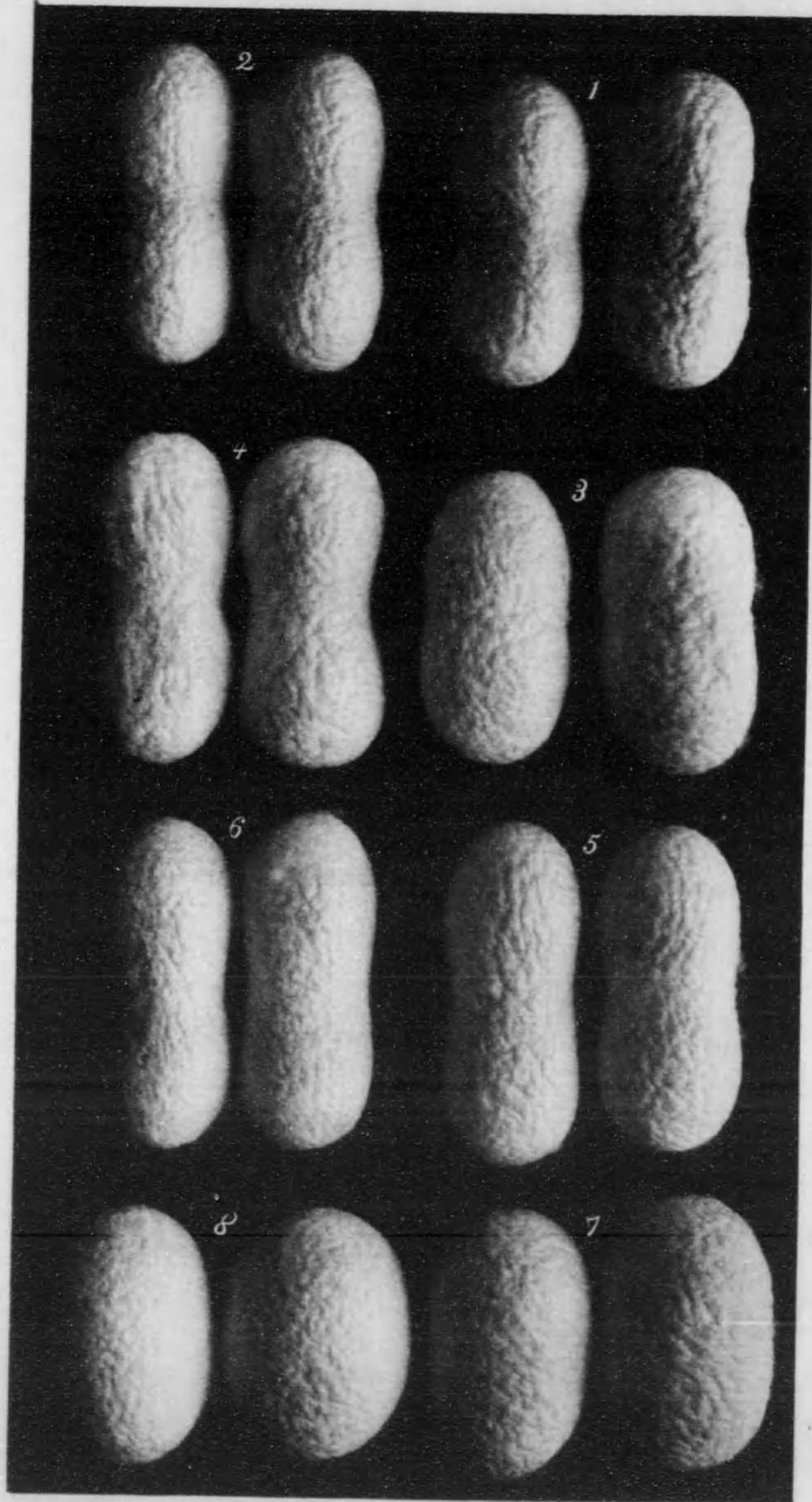
正雜
24
内交

春蠶配付原蠶種及一代雜種繭



- | | | |
|-------------------|-------------------|--------------|
| (白)那支大特×號二良長 3 | (白)號二 良 長 2 | (白)號十二那支大特 1 |
| (白)號二良長×那支大特 6 | (黃)號二 華 蠶 金 5 | (白)號二支蠶國 4 |
| (黃)號二華金×那支大特 9 | (黃)號五 歐 蠶 國 8 | (白)號三支蠶國 7 |
| (黃)那支大特×號二華金 12 | (黃)號七 歐 蠶 國 11 | (白)號四支蠶國 10 |
| (黃)號三支蠶國×號五歐蠶國 15 | (黃)號五歐蠶國×號三支蠶國 14 | (白)號五支蠶國 13 |

秋蠶付原種原繭



(白)熟	青 2	(白)熟	青 1
(白)巢	中 4	(白)號一原	大 3
(白)號六〇一日蠶國	6	(白)蠶白	大 5
(白)號二支蠶國	8	(白)圓	龍 7

配付蠶種に關する注意書

口 繪

春蠶配付原蠶種原繭及一代雜種繭

秋蠶配付原蠶種原繭

目 次

◎春蠶種に關する注意	……………	(本所編)
一 種類改良の必要	……………	一頁
一 蠶種の得失	……………	二頁
一 配付原蠶種の性質及飼育の要點	……………	五頁
一 飼育成績表	……………	九頁
一 各種交雜法の得失	……………	一七頁
一 一代雜種製造上の注意	……………	一八頁
一 一代雜種の特性	……………	二〇頁

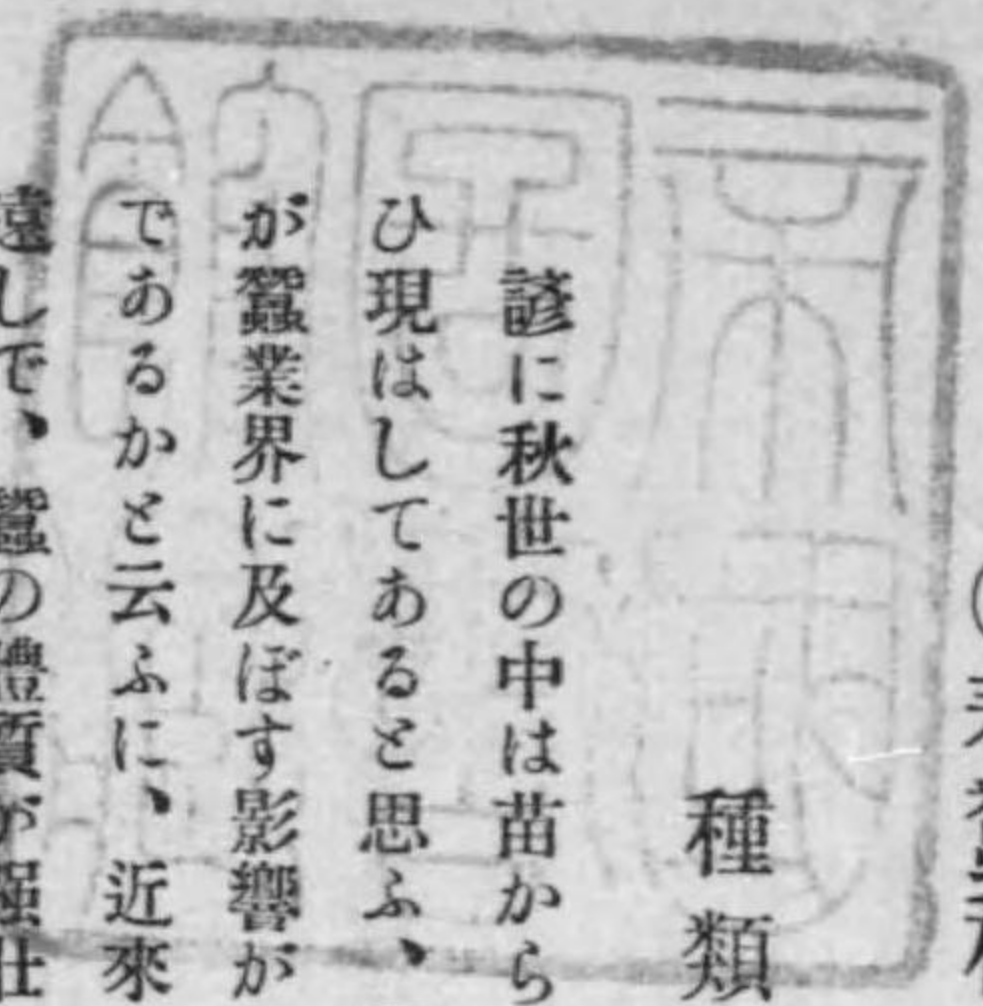
一 一代雜種飼育の要點 二二頁
 一 一代雜種飼育成績表 二五頁
 ◎ 秋蠶種に關する注意 (大井支所編)
 一 蠶の性質 二九頁
 一 配付原蠶種飼育の要點 三〇頁
 一 秋蠶一代雜種飼育の要點 三二頁
 一 飼育成績表 三四頁
 ◎ 原蠶種配付規程 三九頁

配付蠶種に關する注意書

◎ 春蠶種に關する注意

種類改良の必要

本 所 編



諺に秋世の中は苗からとか物は種からとか云ふ事がある、之は其根本が如何に大切であるかを能く言ひ現はしてあると思ふ、所で蠶絲業の根本は何であるか、勿論蠶の種類である、此根源たる種類の良否が蠶業界に及ぼす影響が如何に汎く且大なるかは、今更喋々するまでもない、然るに現在の種類はどうか、近來種類改良問題が喧しくて、追々改良された良き品種が現はれたけれ共未だ前途遠しで、蠶の體質が強壯であれば繭質が不良であるとか、繭質が善良であれば蠶の體質が虚弱であるとか、何等かの缺點が伴ふて吾人の理想に叶ふた優良種は、日本種は勿論支那種でも歐洲種でも殆んど認められぬので何れも大に改良すべき必要がある。若しも此の種類が現在のまゝで改良されなかつたら、如何に飼育技術が進み合理的に取扱はれ栽桑法が改良せられて滋養豊富なる桑葉を給する事が出来るにしても、其種類の有する本性以上に善良なる成績を發揮し得ぬので、逆も吾人の目的に叶ふた様な成績を得る事は出来ぬのである、されば種類に依て前二者の能率程度を左右せらると云ふ有様で、實に種類改良は緊要事である、是は獨り蠶ばかりでなく他の家畜類でも同様で、常に改良された優良種が同一の

飼料と同一の取扱で飼養され夫れで改良されぬ種類に較べて遙かに良い成績を顯して居る、彼の米國では馬齡薯の種類を改良した丈で耕作法には何等是迄と變つた事がなくて一ヶ年四千萬圓以上餘分に收穫することである、此一事を見ても種類改良の如何に必要で、且つ改良の効果の著しい事が判る。

蠶種類の得失

種類改良を行ふに當つては、差當り夫々蠶種類の性質を能く辨へて、其種類の良い點と悪い點とを審かにする事が最も必要である、然しながら數多き種類に就て一々其性質を限りある冊子に述べると云ふ事は逆も出來ぬから、爰に日本種、支那種、歐洲種に大別して種類通有の性状に就て概略を述ぶる事にする。

日本種 は長い間我國の氣候風土に馴れ體質が強壯で病毒に抵抗する力も強く卵の産付が巧みであること云ふ事が此の種の最も良い點である、而し肝心の繭質はどうかと云ふに、第一解舒が悪くて類節が多く織度が不齊で糸尺が短く其上強伸力と弾性に乏しいので一として良い點がない、尙收繭の上から見ても同切繭や其他の屑繭の歩合が多く、蠶兒の發育が緩慢で桑の喰ひ振りが不活潑で廢桑の割合が多いのであるから、兎に角缺點の多い種類と云はねばならぬ。

支那種 は蟲の性質が元氣で體質も強くて病氣に罹る事も少く、桑喰ひが活潑で廢桑の割合が少く、發育が頗る迅速で經過の早い事は第一である、同功繭や其他の屑繭が極めて少く、而して繭質も先づ申分なく即ち解舒が良くて糸量も相當に多く類節が少く織度は稍細過ぎるの傾きはあるが概して細太の差が少く強伸力弾性も豊である、缺點としては卵色が不齊で産付方が荒れて産卵数が少く、而して催青日數

が日本種より一二日長くて繭綿が多いこと云ふ事である、日本種に較べたら遙に良い種類と云ふて宜しい。**歐洲種** は蟲は頗る大きくなるけれ共體質が虚弱で稍もすれば色々病氣に罹る事が多いこと云ふが此種の大缺點である、卵の色が不齊で産付が極めて不規則で産卵が二三日に亘り催青が支那種よりも尙一兩日長く發育の經過も日本種より稍長く蛹の期間も一番長い之等も缺點として數へねばならぬ、併し繭質の頗る優良であること云ふ一大特色がある、即ち解舒が良好で糸尺が長く、糸量が多く織度中庸で而かも克く揃ひ、張伸力及び弾性が豊かで頗る趣味がある、同功繭其他屑繭の割合が極めて少く支那種よりも尙少く、繭質の點から云へば申分がない優良種である。
斯の如く各種共に一長一短未だ以上の純血種にては理想の優良種と云ふ事は出來ぬ、茲に種類改良の必要が起る所以である。

種類改良の方法

種類改良と云ふ事に就ては從來とても色々良い種類を見出さふとして苦心したのであるが、其方法が學問の力に依て根本的に其性質を改良すと云ふ事ではなく、只漠然と經驗に依つて多くは蠶や繭の撰み方により或は飼育の方法に依つて改良を企て偶然優良なるものを得るを僥倖としたので、丁度暗夜に物を探すと云ふ姿で其効果は極めて少なかつた。

元來日本種でも支那種及び歐洲種でも其固有の性質は之れが如何に良いにもせよ又如何に悪いにもせよ特別な淘汰を受けぬ限り何時までも長く子々孫々に傳はると云ふ事は既に遺傳に關する種々の研究に依て認められて居る、左れば蠶の種類を改良するにしても其本性に變化を與へて體質にしても又繭質

金華二號と組合せ、黃繭の一代雜種用の基礎種として配付する。尙掛合用原種の外、其儘複製用原種としてのものにも配付する。

長良二號に較べて催青から、發蛾する迄の期間が凡そ四日位短い、又金華二號に較べては凡そ十日間短いから、能く注意して發蛾を一致せしむる様方法を廻らさねばならぬ。

長良二號 之も本所で選出したもので日本種赤熟系のものである、其性質や飼育方法等は在來の又昔などと格別大した變りはないが、常に舉動が緩慢であるから、取扱に稍困る事があるけれ共體質は強壯である。

特大支那二十號と組合せ、白繭一代雜種用の基礎種として配付する。
國蠶支四號 國蠶支五號と組合せ、白繭一代雜種用の基礎種として配付する。

之は國立蠶業試験場一宮支場から配付を受けて複製した支那白繭種である、普通支那種の性質と變りがないから取立て説明する點もない、飼育は極めて容易である。繭の形は橢圓形で繭綿は割合に少ない。國蠶支五號 國立蠶業試験場一宮支場から配付を得て複製した支那白繭種である、其性質は國蠶支四號と大差がない、繭形は橢圓形で繭綿は多い。

催青から發蛾までの期間は國産支四號と殆んど同じであるから、掛合には最も都合が良い。
金華二號 黃繭一代雜種用の基礎種で特大支那二十號との組合せである。

本所で歐洲黃繭種から淘汰選出したもので、繭質は頗る優良である、稚蠶期の経過は早いが五齡に至りて食桑する間が頗る長い、蟻蠶の時代から四齡頃までは中々活潑で常に蠶座の中を徘徊して静息する事が少ないが、五齡になると體軀が著しく長く大くなり舉動も漸次緩慢となり稍もすれば病毒に犯される憂ひがある。

る憂ひがある。

日本種や支那種に較べ稚蠶の中から體が長大であるから、蠶座が狭くて蠶が込み合ふと云ふ様な事のない様に注意して座を擴げなければならぬ、又常に元氣良く澤山桑を喰ふ性質があるから桑不足のない様又桑は常に充分成熟したものを使用する様心掛け殊に五齡期に於ては稍硬き加減のものを用ひた方が良い、之は獨り此種ばかりでなく總ての品種に於て大切であるが、殊に歐洲種には此注意が一層大切である、又體質が日本種、支那種に較べ稍々虚弱な傾があるから常に温暖と乾燥に氣を付け粗糠や切葉などを充分準備して使用せねばならぬ、格別五齡期になれば出來得る丈け除沙に努めて蠶座を清潔にする事が肝要である、微粒子の傳染蔓延するは實に此の期に於て最も多い、上簇には繭形も大きいから其積りで餘程數少く上げねばならぬ、夫から蛾が卵を産む場合一日で産み終るものは極めて少く多くは二日乃至三日に跨るから産卵當時に於ては一層注意して母蛾の混亂を防がねばならぬ、卵粒は大きくて黄綠色である、産付方は不規則で外觀は見苦しい。

組合せ相手の特大支那二十號に比べて催青中に凡そ二三日間飼育中に凡そ三日間上簇から發蛾までが凡そ四日間合計十日内外長いから餘程手加減して取扱はねば發蛾を一致せしむることが困難である。

國蠶歐五號 國立蠶業試験場一宮支場から配付を受け複製したもので歐洲黃繭種の最も優良なものである、其性質や飼育の點は殆んど金華二號と同じである。

黃繭一代雜種用の基礎種で國蠶支三號と組合せである。
國蠶支三號 國蠶歐五號の片相手で黃繭一代雜種用の原種である。

國立蠶業試験場一宮支場から來た支那白繭種である、蟲質は頗る活潑で常に食桑が極めて旺盛である

種別	目標	餉食月日	停食月日	竣蛻月日	齡	中日數	室內平均	給
長良二號	四前三十日	五月四日	五月五日	五月八日	三、三	一、四	七三九	三〇
國蠶支三號	四前十一日	五月四日	五月五日	五月八日	三、六	一、六	七三〇	三〇
國蠶支五號	五月二日	五月六日	五月七	五月十日	三、七	一、八	七三三	二七
國蠶支二號	五月十一日	五月六日	五月七	五月十日	三、八	一、八	七三五	二九
國蠶支七號	五月十一日	五月六日	五月七	五月十日	三、一〇	一、四	七三〇	二九
國蠶支四號	五月十一日	五月六日	五月七	五月十日	三、一〇	一、九	七三〇	二九
國蠶支五號	五月十一日	五月六日	五月七	五月十日	三、一〇	一、九	七三〇	二九
國蠶支三號	五月十一日	五月六日	五月七	五月十日	三、二	一、一	七三〇	二九
金華二號	五月十三日	五月七	五月八	五月十一日	三、二	一、一	七三〇	二九

第貳齡

種別	目標	餉食月日	停食月日	竣蛻月日	齡	中日數	室內平均	給
特大支那二十號	五月六日	五月十日	五月十一日	五月十四日	二、七	一、五	七三〇	二〇
長良二號	五月八日	五月九日	五月十日	五月十三日	二、三	一、八	七三〇	二〇
國蠶支三號	五月八日	五月九日	五月十日	五月十三日	二、三	一、八	七三〇	二〇
國蠶支二號	五月七	五月九	五月十日	五月十三日	二、一〇	一、八	七三〇	一八
國蠶支七號	五月六日	五月九日	五月十日	五月十三日	二、九	一、一	七三〇	一八
國蠶支四號	五月六日	五月九日	五月十日	五月十三日	二、九	一、一	七三〇	一八
國蠶支五號	五月六日	五月九日	五月十日	五月十三日	二、八	一、四	七三〇	二〇
金華二號	五月九日	五月九日	五月十日	五月十三日	二、六	一、四	七三〇	二〇

種別	目標	餉食月日	停食月日	竣蛻月日	齡	中日數	室內平均	給
特大支那二十號	五月八日	五月十四日	五月十五日	五月十八日	二、〇	一、二	七五〇	一九
長良二號	五月九日	五月十四日	五月十五日	五月十八日	三、五	一、二	七四一	二四
國蠶支三號	五月九日	五月十四日	五月十五日	五月十八日	二、八	一、二	七四五	二二
國蠶支五號	五月九日	五月十四日	五月十五日	五月十八日	三、二	一、二	七三二	二二
國蠶支二號	五月七	五月九	五月十日	五月十三日	二、一〇	一、二	七三〇	一八
國蠶支七號	五月六日	五月九日	五月十日	五月十三日	二、九	一、一	七三二	二四
國蠶支四號	五月六日	五月九日	五月十日	五月十三日	二、九	一、一	七三二	二四
國蠶支五號	五月六日	五月九日	五月十日	五月十三日	二、八	一、四	七三二	二〇
金華二號	五月九日	五月九日	五月十日	五月十三日	二、六	一、四	七三二	二〇

第參齡

種別	目標	餉食月日	停食月日	竣蛻月日	齡	中日數	室內平均	給
特大支那二十號	五月十一日	五月十四日	五月十五日	五月十八日	二、〇	一、二	七五〇	一九
長良二號	五月十日	五月十四日	五月十五日	五月十八日	三、五	一、二	七四一	二四
國蠶支三號	五月九日	五月十四日	五月十五日	五月十八日	二、八	一、二	七四五	二二
國蠶支五號	五月九日	五月十四日	五月十五日	五月十八日	三、二	一、二	七三二	二二
國蠶支二號	五月七	五月九	五月十日	五月十三日	二、一〇	一、二	七三〇	一八
國蠶支七號	五月六日	五月九日	五月十日	五月十三日	二、九	一、一	七三二	二四
國蠶支四號	五月六日	五月九日	五月十日	五月十三日	二、九	一、一	七三二	二四
國蠶支五號	五月六日	五月九日	五月十日	五月十三日	二、八	一、四	七三二	二〇
金華二號	五月九日	五月九日	五月十日	五月十三日	二、六	一、四	七三二	二〇

種別	目標	餉食月日	停食月日	竣蛻月日	齡中日數	室內平均	給	對蟻一匁量
國蠶歐七號		五月十一日 午前十一時	五月十四日 午後十四時	五月十六日 午後一時	三、三	八、二五	五、二	七四、一
國蠶支四號		五月十一日 午前十一時	五月十四日 午後十四時	五月十六日 午後一時	二、八	一、九	四、一五	七四、三
國蠶支五號		五月十一日 午前十一時	五月十四日 午後十四時	五月十六日 午後一時	二、七	一、二	四、六	七四、二
金華二號		五月十三日 午後二時	五月十七日 午前六時	五月十八日 午後十二時	三、〇	一、八	五、〇	七三、九

第四齡

種別	目標	餉食月日	停食月日	竣蛻月日	齡中日數	室內平均	給	對蟻一匁量
特大支那二十號		五月十五日 午後五時	五月十九日 午前九時	五月廿一日 午後二時	三、九	八、二	五、二	七三、五
長良二號		五月十六日 午前二時	五月二十日 午後六時	五月廿三日 午前二時	四、〇	二、四	五、二	七三、五
國蠶支三號		五月十四日 午後六時	五月十七日 午前	五月十九日 午前二時	二、二	二、九	七、一	七二、九
園蠶歐五號		五月十七日 午後四時	五月廿二日 午前十一時	五月廿四日 午後一時	四、八	二、二	五、四	七五、二
國蠶支二號		五月十六日 午後一時	五月二十日 午前七時	五月廿二日 午前四時	三、二	一、二	六、二	七三、三
國蠶歐七號		五月十六日 午前	五月廿一日 午前六時	五月廿三日 午後一時	四、七	二、七	七、〇	七二、八
國蠶支四號		五月十六日 午前	五月十九日 午後八時	五月廿二日 午前四時	三、五	二、八	六、一	七二、一

種別	目標	餉食月日	停食月日	竣蛻月日	齡中日數	室內平均	給	對蟻一匁量
國蠶支五號		五月十五日 午前五時	五月十九日 午前四時	五月廿一日 午後十一時	三、五	六、二	五、八	七二、六
金華二號		五月十八日 午後十二時	五月廿三日 午後四時	五月廿五日 午後四時	三、三	二、〇	六、六	七四、二

第五齡

種別	目標	餉食月日	上簇月日	齡中日數	室內平均	給	對蟻一匁量	
特大支那二十號		五月二十一日 午後二時	五月二十八日 午後八時	七、六	七、〇	七、五	三、〇	四、六〇〇
長良二號		五月二十三時	五月三十時	七、七	七、八	七、六	三、〇	四、〇五〇
國蠶支三號		五月十九日 午前九時	五月二十五日 午前八時	五、三	七、八	七、三	二、九	三、六〇〇
國蠶歐五號		五月十九日 午前九時	五月二十五日 午前八時	五、三	七、八	七、三	二、九	三、六〇〇
國蠶支二號		五月二十四日 午後一時	五月三十日 午後十時	八、九	七、〇	七、三	三、一	四、三〇〇
國蠶歐七號		五月二十二日 午前四時	五月二十八日 午後十時	六、八	七、〇	七、六	二、八	三、六〇〇
國蠶支四號		五月二十二日 午後二時	五月三十日 午後一時	七、〇	七、七	七、六	三、〇	四、〇五〇
國蠶支五號		五月二十一時	五月二十八日 午前四時	六、六	七、〇	七、六	二、七	三、五三〇
金華二號		五月二十五日 午後四時	六月十二日 午後十二時	八、八	七、六	七、二	三、三	四、三〇〇

種別 目標	掃立月日	上簇月日	齡中		計數	室內平均		給桑
			食桑中	絕食中		溫度	濕度	
特大支那二十號	五月十一日	五月二十八日	二, 七時	六日	二, 七九時	七, 三〇度	七, 〇%	二八
長良二號	四月三十日	五月三十日	二, 三三	六日	二, 九三	七, 三三	七, 四	二八
國蠶支三號	四月三十日	五月二十五日	一, 八八	六日	二, 四二	七, 三〇	七, 七	二八
國蠶支五號	五月二日	六月十日	二, 三七	六日	三, 〇九	七, 三三	七, 一	二八
國蠶支二號	五月十一日	五月二十八日	二, 〇〇	六日	二, 六二	七, 三一	七, 三	二八
國蠶支七號	五月十一日	五月三十日	二, 一八	六日	二, 六二	七, 三一	七, 三	二八
國蠶支四號	五月十一日	五月二十八日	二, 一八	六日	二, 九二	七, 三四	七, 九	二八
國蠶支五號	五月十一日	五月二十八日	二, 〇三	六日	二, 六四	七, 三二	七, 九	二八
金華二號	五月十三日	六月十二日	二, 四七	六日	三, 〇三	七, 三九	七, 四	二八

自上簇至發蛾日數

種別	目標	上簇月日	發蛾月日	自上簇至發蛾日數	平均溫度	平均濕度
----	----	------	------	----------	------	------

特大支那二十號	五月二十八日	六月十日	一四日	七, 三五	七, 五〇	七, 五〇
長良二號	五月三十日	六月十四日	一五日	七, 四四	七, 〇三	七, 〇三
國蠶支三號	五月二十五日	六月八日	一四日	七, 三二	七, 〇六	七, 〇六
國蠶支五號	六月一日	六月十八日	一八日	七, 四五	七, 四	七, 四
國蠶支二號	五月二十八日	六月十一日	一五日	七, 三五	七, 五〇	七, 五〇
國蠶支七號	五月三十日	六月十五日	一六日	七, 五六	六, 九四	六, 九四
國蠶支四號	五月二十八日	六月十一日	一五日	七, 三五	六, 七〇	六, 七〇
國蠶支五號	五月二十八日	六月十日	一四日	七, 三五	六, 七〇	六, 七〇
金華二號	六月二日	六月十九日	一八日	七, 四五	七, 四	七, 四

自催青着手至發蛾日數

種別	目標	催青期間	飼育期間	蛹體期間	計
特大支那二十號	四日	三三	二六	一四日	五, 六
長良二號	三日	三三	二五	一六	五, 九
國蠶支三號	七	三七	二五	一八	五, 三
國蠶支五號	七	三七	二五	一八	五, 三
國蠶支二號	五	三七	二五	一七	五, 七
國蠶支七號	四	三七	二五	一五	五, 六
國蠶支四號	四	三七	二五	一五	五, 六

國蠶支五號	二四	二六	二四	一六
金華二號	二七	三三	二八	六五

收繭表 (蠶量壹匁に對する重量)

種別	目標	上繭		中繭		同切繭		合計
		重量	百分率	重量	百分率	重量	百分率	
特大支那二十號	三八九	一〇五	二四	二七	六五	四二七		
長良二號	三九四	一三六	三三	二七	五六	四三六		
國蠶支三號	三二三	一四三	三三	二七	五六	四三六		
國蠶支五號	三二七	一四三	三三	二七	五六	四三六		
國蠶支二號	二七二	一四三	三三	二七	五六	四三六		
國蠶支七號	三六九	一四三	三三	二七	五六	四三六		
國蠶支四號	三〇七	一四三	三三	二七	五六	四三六		
國蠶支五號	三三〇	一四三	三三	二七	五六	四三六		
金華二號	三二二	一四三	三三	二七	五六	四三六		

繭質調査表

種別	目標	繭形	色澤	普通繭		絲長	織度
				一樹ノ重量	一樹ノ顆數		

特大支那二十號	豐大楕圓形	白	色	八〇	一五八	一九	六七〇	三〇五
長良二號	淺縊普通形	白	色	七九	一六四	一七	六九〇	三三四
國蠶支三號	豐大楕圓形	白	色	七七	一八一	一七	七四〇	二二三
國蠶支五號	淺縊普通形	肉	色	九	一四	一七	七五〇	三〇八
國蠶支二號	球形	白	色	五	一五	一七	七三〇	二五二
國蠶支七號	短瓢形淺縊	淡肉黃色	色	九	一七	一八	七四〇	二二六
國蠶支四號	楕圓形	白	色	八	二〇	二二	六九〇	二二六
國蠶支五號	短楕圓形	白	色	八	二〇	二二	六九〇	二二六
金華二號	淺縊普通形	肉	色	五	一五	一七	七三〇	二二六

各種交雜法の得失

蠶の種類改良の目的に行ふ交雜法は、(一)雜種と雜種との交雜法、(二)雜種と純血種との交雜法、(三)純血種と純血種との交雜法の三種がある、此中で(一)と(二)とは複製雜種と云ふ、(三)は一代雜種と云ふ、複製雜種と一代雜種とを比較すると各一得一失はあるが、複製雜種の良い點は、第一原種の飼育が容易である、歐洲種の如きは所謂純血種と交雜種とを比較すると交雜種に飼育の容易のものが多し然るに複製雜種は其原種として雜種を飼育するのであるから飼育困難な歐洲種の所謂純血種などより飼育が容易である、第二産卵數が多い、蠶の卵は母蛾の體內で發育して後産出する際雄の精を受くるのであるから卵數は母蛾の體內で已に決定して居る、故に同種の精を受けて純血の状態を保とうが、異種の

精を受けて雑種にならうが、受精後に於て卵数の増減する事はない、従つて母體に卵数の多いものを用ふれば産卵数は多い譯である、然るに一般に雑種から生ずる母蛾は純血種のものより卵数が多い、故に雑種を原種とする複製雑種は純血種を原種とする一代雑種より概して卵数が多い、之れは蠶種として必要な條件である、第三複製雑種は製造上簡單である、然れども複製雑種は多くは蠶兒の経過は不齊で繭質も不齊である。

以上述べた複製雑種の得點とする處は一代雑種の比較的弱點であるが、併し一代雑種には他に良點で澤山ある、原種の選擇と配遇法が良く普通に製造せらるゝものであると、第一蠶兒の経過が能く齊ひ、眠起其他の場合廢蠶となる歩合が少ない、第二蠶兒の體質が弱くて品質の良いものは體質の強いものと交配して比較的弱くして飼育する事が出来る、第三生産繭が齊一で絲質も比較的齊一である。

要するに何れも一得一失はあるが、複製雑種は主に蠶種製造家に利益が多く、一代雑種は養蠶家及製絲家に利益が多い、殊に繭質改良と云ふ點から見ては複製雑種は當抵一代雑種に及ばない、今日は日本の繭質を改良する最も大切な時期である、故に複製雑種よりも一代雑種種の方面に向つて進まねばならぬ。

一代雑種製造上の注意

一代雑種は複製雑種又は交配せざる状態のものに比較して優良なる點はあるが、併し一得一失は數の免れざる處一代雑種には亦多少の缺點はある、殊に蠶種製造上の技術が頗る面倒であるから、此點は豫め注意を怠つてはならぬ、今其要點を極簡單に述べて見ると。

基礎原種の選擇を忽にせざる事、一代雑種ならば如何なる配偶のものでも必ず結果が良いとは云へぬ

配偶法の如何によりて案外結果の良くない場合もある、兩基礎原種を別々に飼育すると相當よい結果のものでも、夫れを交雜して一代雑種にしては豫期の結果を奏せぬ場合がある、故に一代雑種の配偶法を定めるには夫々實驗に基かねばならぬ、決して推測を許さぬ、之れが原種選擇の必要ある第一である。良い配偶法のものでも原種の性質が一定して居らぬと結果が悪い、例へば黃繭種の一世代雑種の場合に於て原種の繭色が一定して居らぬと交雜後には一層明瞭に分離する、故に原種の性質は必ず一定せるものを選択せねばならぬ、之れが原種選擇の必要ある第二である。

以上の二條件は甚だ意味が廣いから能く此點に注意して原種の選擇を忽にしてはならぬ、近來は此意味で各製造者が多數の種類を集め恰も一の種類試験を行つて居らるゝが、設備のない處では甚だ危険である、故に配偶法は實驗に基き且原種は系統の明瞭なものでなくてはならぬ。

原種保存に關する事 (一)に述べた理由に依りて選擇した原種を所謂純血の状態で年々保存して行かねばならぬ、之れも中々困難な事であるから、系統の確實なものを年々手に入れるか、或は系統の明瞭な原種の配布を受けるのが事業上簡單で比較的安全である。

兩基礎原種の發蛾を同時ならしむる事 交雜の目的を達するには、交雜に使用する甲乙兩基礎原種を同時に發蛾せねばならぬ、然るに各種類に依つて経過日數に長短の差があるから、之等のものを同時に發蛾せしむるには、豫め各種類の経過日數を調査し、経過日數の短かいものは催青に後れて着手する必要がある、如斯催青着手の始めに調節しても飼育中の温度の變化で豫定通りに調節出來ぬ場合は上簇後遅れた一方には温度を高めて経過を促進せしめ、或は進んだ一方のものは繭の冷蔵によりて發蛾期を調節する等の手段を取らねばならぬ。

雌雄の區別を明瞭にし置く事 一代雜種は甲と乙とを交雜せしむるもので、同種間の交尾は絶対に防かねばならぬ、其方法として第一雌雄を明瞭に區別して、各別所に置かねばならぬ、雌雄の鑑別法としては石渡博士の法によりて、蠶兒の時代に鑑別するものと、繭の重量によりて雌雄を鑑別するもの等があるが、何れも多忙の時期であるから一つの方法のみでは却つて不可能の事であるから、蠶兒の時代に出来るだけ雌雄を鑑別し、他は繭の重量を以て鑑別し尙不安心なものは、一粒宛隔離せる容器に入れて保護し、絶対に雌雄を分離して自由に同種間の交尾を避けねばならぬ。

基礎原種の病毒豫防に注意する事 如何なる場合でも病毒の發生は禁物である、が病毒の感染は蠶の種類によつて異なるもので歐洲種は一般に日本種及支那種よりは病毒に罹り易い、然るに一代雜種の方の原種には一般に歐洲種に優良のものが多いためから病毒豫防には一層の注意をせねばならぬ。

一代雜種の特性

蠶の種類は日本種支那種及歐洲種など夫々特有の性質があるから、之等の種類を原種として交雜する一代雜種は、種々な特性を現はし或は母體に偏した中間の性質を現はし、又或る性質は雌雄には關係なく遺傳學上優性な方面に偏した中間の性質を現はし、又或る性質は兩親に全く現はれて居らぬ性質が交雜の結果明瞭に現れる事もあつて、非常に複雑であるが左に項を別けて其大體を述べて見ると。

蠶種に現はれたる特性 (イ)卵色は略母體の卵色に似るものである、日支交配の場合に日本種を母體とすれば産卵は日本種に似た卵色支那種を母體とすれば支那種に似たる卵色となる、日歐又は支歐の交配の場合でも同様である。(ロ)卵の重さも母體に偏した中間の性質を現はすもので、日本種の卵は輕

く支那種の卵は重い歐洲種の卵は最も重い、日支交雜の場合に若し日本種を母體とすれば日本種の卵に偏して日支各別の平均卵量より軽い、日歐又は支歐交配の場合も同様である、但卵の大きさは全く母體に似る。(ハ)産付の状態は母體に似るもので、日本種又は支那種は産付状態は善く歐洲種は悪い故に歐洲種を母體とした交雜種は産付が悪く、日本種又は支那種を母體としたものは産付が比較的善い。(ニ)卵数も又母體に似るものであるから、卵数の多い種類を母體とすれば卵数が多く反對に卵数の少ないものを母體とすれば雄は如何に卵数の多い系統のものでも卵数は少ない。(ホ)催青日数は雌雄に關係なく略中間の性質を現はす様である、日本種は催青日数最も短かく支那種は稍長く歐洲種は最も長い之等の交配種の催青日数は概して其中間を現はす様である。

蠶兒に現はれたる特性 (イ)一代雜種に於ける蠶兒の經過日数は兩基礎原種の平均經過日数より多少短縮する傾向がある、且經過日数に長短著しい差のある二の種類を原種として交配すると多少母體に偏して中間の經過日数を現はすのが認められる、支那種は一般に經過日数が短かく、歐洲種は經過日数が比較的長い、之等のものを原種として製造した支歐の一代雜種は兩原種の平均日数よりは多少短縮する且支那種を母體とすると、其反對の場合より飼育日数が多少短かい様である。(ロ)體質強健の度は具體的に現はし難いが、強弱二の種類を交配して製造せる一代雜種は兩種の中間よりは稍強く偏し、且強い種類を母體とすれば其反對の場合より多少強い傾向がある、共に經過は著しく齊一であるから、兩基礎原種に比較して飼育中の取扱は容易である。(ハ)一代雜種蠶の體重は母體に偏した中間の性質を現はす、而して蠶兒が發育と共に次第に母體に偏する歩合は減じて行くが熟蠶になる迄常に母體に偏して居る、支那蠶の體重は輕く歐洲蠶の體重は重い、然るに此二を原種として支歐の一代雜種を製造するに

支那種を母體とせる蠶は其反對の場合に比較して蟻蠶より熟蠶に至る迄常に體重は軽い、併し蠶が發育すると共に次第に軽い歩合は減じて行く、多數のものを平均した成績は次の如くである。

配	偶	法	盛 蠶 體 重 (對一〇〇頭)					甲乙二種體重の比						
			第一齡	第二齡	第三齡	第四齡	第五齡	熟 蠶	第一齡	第二齡	第三齡	第四齡	第五齡	熟 蠶
甲	支那種	歐洲種	六八五	三七四	一九二	一〇・七〇	四七・六三	四一〇・三八〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇
乙	歐洲種	支那種	六六七	四・五三	三三〇・九	二六・四五	五二〇・五三	四七・二一〇	一・二六	一・四	一・二二	一・三	一・〇八	一・二

(二)蠶兒の皮膚にある種々なる斑紋は雌雄には關係なく遺傳學上優性な方面に偏した中間性を現はす、例へば熊蠶の熊と云ふ形質は形蠶の形と云ふ形質に對しては遺傳學上優性である故に熊蠶と形蠶との蛾を交配して製造した一代雜種は熊蠶の雄を使ふが、又は雌を使ふが必ず熊蠶となる、併し純粹の熊蠶よりは稍淡色の熊蠶となる、即ち雌雄には關係なく只遺傳學上優性な熊と云ふ形質に偏した中間の性質を現はす、其他の斑紋も同一である。

繭に現はれたる特性 (イ)繭色も雌雄には關係なく遺傳學上優性な性質に偏したる中間の性質を現はす、肉色繭種と支那或は日本の白繭種との一代雜種は優性な肉色繭種に偏した中間の性質を現はし黄色の繭ではあるが元の肉色繭とは大に異なつて居る、支那金黃と肉色繭種との交配は殆んど中間の色を現はし、ブランビユールの如きは絶対に白繭となる例外はある。(ロ)繭形も雌雄には關係なく遺傳學上優性な方面に偏した中間物となる、國一の如き紡錘形の繭は如何なる形質に對しても優性であるから、之れと他の種類との雜種は紡錘形に偏した中間物となり、俵形の日本種と隋圓形の支那種との一代雜種

は隋圓形に偏した淺縊のある中間物となる。(ハ)繭の大きさは一の組合せでは蠶の大きさと累比例的に關係を保つから、支歐の一代雜種では支那種を母體とした方は其反對の場合よりは繭が小さい。

絹絲に現はれたる特性 (イ)絲長は母體に偏したる中間の性質を現はす様である、日本種は絲長少く支那種は稍多く歐洲種は最も多い、之れを適宜に交配して製造した一代雜種例へば支歐の交配種では兩原種の平均絲長よりは長い、且歐洲種を母體としたものは其反對に支那種を母體とした場合より一般に絲長が長い。(ロ)織度も多少母體に偏した中間性を現はす傾向がある。

一代雜種飼育の要點

「催青中の注意 催青中は卵の生理上最も重要な時期で此際の注意如何によつて善悪共に至大の結果を來すものであるから取扱上充分注意を要する、其主なる點は溫度、濕度及空氣の三つである、溫度は催青の初め二三日は僅かに高めて華氏六十五、六度乃至七十度位に止め其以後は七十四、五度を中心として上下に變化せぬ様急激に變化のない様注意を要す、中心溫度に遠ざかり或は急激の變化は其結果がよくない、濕度も七十四、五乃至八十%位を適度とす、然るに春期低溫な時期に澤山の炭火を使用して室内溫度を高めると自然濕氣が缺乏するから此點を注意し斯る場合は溫度を補はねばならぬ、亦催青中は卵の呼吸作用が盛であるから蠶種は決して積み重ねては能くない。

飼育中の注意 (イ)給桑の注意 桑は成分の關係上稚蠶期には軟葉を與へ蠶兒の發育するに従つて齡相當の硬葉を給桑するの必要がある、軟葉は蠶兒を肥大にし繭質も良いけれども壯蠶期の蠶兒の飼料としては水分多きに過ぎ且必要成分が不足して居るから其爲に蠶兒が強健に育つ事が出來ぬ、夫故齡相當

の硬度の桑葉を選択し新鮮のものを與ふるが最も必要な事である、蠶兒に桑を與ふる上に於て最も注意を要するものは、蠶兒食慾の程度を察して桑を與ふると云ふ事である、食慾の進まぬものに矢鱈に桑を與へるは蠶兒の營養上に何等の利益もなく、衛生上から見れば有害である、而して日支、支歐の一代雜種は在來種などに比較すると食慾が餘程旺盛であるから必要に應ずる丈の桑を與へねばならぬが、之等の一代雜種は經過日數が比較的短かいから餘程注意して居ても既に手後れとなつて營養不足に陥入る事がある、特に雜種に甚だしい、故に之等の點に能く注意して手後れとならぬ様にすることが給桑上の主要な點である。(ロ) 除沙及分箔の注意 一代雜種は在來種に比較して經過を急ぎ食慾が盛であるから從て給桑も多く一定時間に殘桑や糞の堆積する量が多い、故に除沙を出来る丈に頻繁にして可成蠶座が多濕に過ぎぬ様にせねばならぬ、分箔に付ても同様短期間に多く發育するから、常に面積の不足せぬ様發育の前に座を擴ぐるの必要がある。(ハ) 温濕度其他の注意 在來種に比較して一般に冷濕を忌む傾きがあるから、温度は稍高く七十三、四度を中心として上下に餘り變化せぬ様に取り扱ふがよい、湿度は概して七十乃至七十四、五%位ならば良い、而して同じ湿度でも一代雜種は一定期間に多く桑葉を與ふるから自然蠶座が濕潤になり易い、殊に一代雜種の蠶兒は特に濕潤を忌むものであるから可成多く粗糠を使用して蠶座が濕潤に過ぎぬ様注意が肝要である、其他一般の種類と同様飼育中常に換氣の必要あるは勿論である、要するに日支又は日歐の一代雜種は冷濕を忌む傾きがあるから飼育温度を稍高くし蠶座を乾燥する必要がある、然るに其性質として經過を急ぐから更に高温で飼育すれば一層經過を急ぐ故手後れとならぬ様給桑に注意する事が最も肝要である。

上簇に關する注意 一代雜種は經過が能く齊ひ熟蠶も一齊に現はれるから手後れとならぬ様、殊に日

支の一代雜種は比較的同功繭の多いものであるが上簇期に手後れとなると一層同功繭が多くなるから稍未熟の程度に上簇する事と繭を造る場所の多い簇を用ひ可成薄上げにする事が肝要で、又上簇當時餘り高温にして結繭を急がしめる事を避けねばならぬ、又一代雜種の繭は大いから簇に丈夫の準備が必要である、其他上簇中は換氣を能くし乾燥に勉め繭質を惡變せしめぬ注意が肝要である。

一代雜種催青經過表

配	♀	偶	法	催青			日	合計	温			濕		
				初期	中期	末期			初期	中期	末期	初期	中期	末期
長良二號	特大支那	六日	六日	一九	五八	七〇	七〇	七二	七四	七五				
特大支那	長良二號	六日	六日	一九	五七	七〇	七〇	七二	七四	七五				
特大支那	金華一號	三日	三日	一八	五七	七〇	七〇	七二	七四	七五				
金華一號	特大支那	三日	三日	一八	五七	七〇	七〇	七二	七四	七五				
特大支那	金華二號	五日	五日	一九	五七	七〇	七〇	七二	七四	七五				
金華二號	特大支那	五日	五日	一九	五七	七〇	七〇	七二	七四	七五				
國蠶支三號	國蠶歐五號	五日	五日	一九	五八	七〇	七〇	七二	七四	七五				
國蠶歐五號	國蠶支三號	五日	五日	一九	五八	七〇	七〇	七二	七四	七五				

一代雜種飼育經過表

配	♀	偶	法	第一齡	第二齡	第三齡	第四齡	第五齡	全齡

金華二號	特大支那	一四六	一五四八	七六	一〇八〇	六四〇	三二五	三六四	二二二
國蠶支三號	國蠶歐五號	一六六	一四六六	七二	一〇〇〇	五〇〇	二七九	三八三	二二七
國蠶歐五號	國蠶支三號	一五一	一四八三	八四	九〇	五八〇	二八三	三七九	二二八

◎秋蠶種に關する注意

大井支所編

蠶の性質

青熟 本種は二化性純系種にして卵の冷蔵耐久力強く發生良好に發育稍緩慢の傾きあれども強健にして飼育容易なり。

中巢 本種は二化性純系種にして卵の冷蔵力前者に稍劣れりと雖蠶兒頗る強健にして發育經過速に飼育極めて易し。

大原一號 本種は二化性交雜種にして卵の冷蔵力強く發生佳良なり、蟲質強壯にして經過迅速に眠起及催熟等特に齊一なり、故を以て動もすれば食桑不足に陥らしめ爲に蠶兒の健康を害し或は繭質を劣變せしむるの憂あれば此點に注意を要す、而して斯種は三代以上複製する時は分離表現する形質あるを以て純系種の如く代々複製せざるを安全とす。

大白蠶 本種は二化性純系種にして卵の冷蔵力強く發生可なり、蠶兒の經過速ならざれども強健なれば飼育困難ならず、而して斯種は基礎原種として龍圓と交配するを要す。

龍圓 本種は黒種一代雜種用基礎原種として新に造成せし二化性固定雜種なり、卵の冷蔵力特に強く發生可良に蠶兒の發育經過速にして飼育し易けれども蠶兒の食慾に注意せざれば食桑不足の害を被る事多し。而して斯種は大白蠶と交配するを要す。

國蠶支二號 本種は一化性種にして卵の冷蔵力弱く從て發生良好ならず、夏秋期に於ては蟲質強健と

謂ひ難く経過殊に速なるを以て用桑に注意し食桑不足に陥らしめざる事肝要なり。而して斯種は一代雜種用原種として國蠶日一〇六號と交配するを要す。

國蠶日一〇六號 本種は二化性にして卵の冷蔵力發生竝に蠶兒の發育経過通常にして飼育容易なり、斯種は國蠶支二號と交配するを要す。

配付原蠶種飼育の要點

催青中の要點 蠶種を冷蔵所より取り出し催青に着手せし後は主に次の二項に注意するを要す。

(イ)一定の高温度(成可華氏七十四、五度以上八十度以下)維持せしむべし、温度の高低に失する時は蠶兒を虚弱ならしめ且つ繭質の劣變を免れず、温度は一定せしむべく變化ある温度は一定温度より其効率少く往々致害の因となることあり。(ロ)湿度は凡七十五%より八十%迄を適當とす、濕氣の多少は卵の生理に及す關係温度の如く痛切ならざれども多濕過乾は共に卵の健康を害するものなれば温度の高低に應じ加減調節する事肝要なり。

飼育上の要點 (イ)給桑上の注意 蠶兒の發育上最密接の關係あるものは桑葉の良否なり、故に苟にも蠶齡に適應せざるものを用ふべからず、殊に稚蠶期は硬軟其度を失せず善良なるものを選択給與し壯蠶期に及びては充分成熟し稍硬き加減のものを可とし、軟に失し或は貯藏長きに涉りたるが如きものは不可なり。給桑の方法は飼育技術上の最大眼目なり、其要點は第一に蠶兒の食慾状態を精細に觀察して二に温度の高低蠶座の乾濕等周圍の状態を参照し之が分量と回数とを斟酌し適期に適量を給與し常に蠶兒をして食不足を感せしめざる様周到の注意を要するなり、世には蠶兒の食慾を察する事なく徒に温度

の高低蠶座の乾濕等を以て給桑の標的とし爲に蠶兒を營養不足に陥れ不知不識の間に不作の因たらしむるもの妙しとせず、警めざるべからず。(ロ)分箔除沙の注意 蠶座の廣狹は蠶兒衛生及び桑葉經濟に關係を有するを以て蠶兒の發育に應じ常に適當なる座積を與ふる事を肝要とす、而して適當の座積は一、二齡は凡そ蠶體の四、五倍三齡は凡そ三倍四齡は凡そ二倍五齡は凡そ一倍とす、但し各齡を通じ成長極度に達する迄の間に於て順次數回に擴座すべきものとす。蠶座の清潔を保つは蠶兒衛生上重要條件の一つなり、故に蠶座は糞沙堆積し或は濕潤ならざる爲に稚蠶期より壯蠶期に及んで漸次除沙回数を増加すると共に可成粗糠又は切藁を給桑前に撒布し以て蠶座の清潔と乾燥とを計る事に努むべし。(ハ)濕湿度の注意 育蠶中の温度は直接蠶兒の發育と健康に至大の關係を有す、故に適當なる温度中に於て飼育する事を必要とす、其適當なる温度は概ね華氏七十三、四度より華氏八十度迄の範圍なり、されば天然氣温の高き秋蠶期にありては日覆撒水及蠶室の開閉等により可及的低温を保たしむるの工夫を要するなり。湿度も温度の高低に伴ひ調和を計り常に湿度を保たしめざるべからず、過濕の生理上厭ふべきものなるは勿論なると共に過乾も亦桑葉の萎凋速となり不知不識給桑不足と同一の弊に陥り易きものなれば注意を要す、而して適當の湿度は乾濕兩球の示度の差を以て示せば概ね五度より八度迄の間なりとす。(ニ)換氣の注意 空氣は生物生存上の一大要素にして缺くべからざるものなるや勿論なりと雖も直接の通風は他面に於て桑葉の枯凋を速ならしめ自然蠶兒をして食桑不足に陥らしめ易き弊あるを看過すべからず、之を以て湿度高き場合は可成通風を計り以て室内空氣の清新と乾燥を促すの要ありと雖之れに反し乾燥勝の場合は可成直接の通風を避け間接に圓滑なる換氣を計るの手段を施し徒に戸障子を開放すべからず、特に日中高温なる場合に際し戸障子を開放して通風を計るが如きは一面に於ては室内温度を上

昇し他面に於ては桑葉の枯凋を速かならしめ徒に二重の危険を招致するに止り何等の効果なき場合多し故に秋蠶に於ては機に臨み變に應じて戸障子の開閉換氣装置の利用に一層の注意を拂はざるべからず。(ホ)上簇の注意 種繭用蠶兒は充分成熟したるものを上簇せしめ必ず未熟蠶を上簇せしめざる様注意をなすと共に過熱に失せしむべからず。簇中保護温度は概ね華氏七十五度以上八十度以下を可とす而して常に空氣の流通と排濕を計るべし。

秋蠶一代雜種飼育の要點

催青中の注意 催青中は生理上重要時期にして之れが保護法の適否如何は蠶兒の運命を半以上左右するものなり、故に充分の注意を要す、此期間に於て最も密接なる關係を有するは温度なり、若し華氏六十七、八度以下の低温催青となり或は華氏八十二、三度以上の高温催青となりたる場合の如き何れも不良の結果を招き蠶兒虛弱にして繭形短小なるを免れず、又變化多き温度は卵の發生蠶兒の發育及繭形を不齊ならしむる傾向多し、故に催青に當つては華氏七十五度乃至八十度の温度を維持し變動ならむるを可とす、湿度も又温度の高低に準し適度を保たしむるを要す、其適度は凡七十四、五%より八十%の範圍なり。

催青に要する日數は冷蔵中同一温度を以て保護せしものにあつても一代雜種は交配せし兩親の雌雄關係により長短あり、即ち龍圓及國蠶支二號の雌を用ひたるものは大白蠶及國蠶日一〇六號の雌を用ひたるものより約一日を多く要す、故に掃立を同一ならしむるには前者を約一日早く冷蔵所より取り出し催青すべし。

飼育中の注意 (イ)給桑の注意 桑葉は蠶兒唯一の食物にして最も大切のものなれば蠶齡に適應したる品質善良のものを選擇給與するの要ある事勿論なれども一代雜種は在來種に比較し嫩軟に失する者を給與すれば不良の影響を及ぼす傾き多きを以て充分成熟したる新鮮なるものを給與すべし。給桑方法の適否は直に蠶兒の健否成繭の良否に關係あれば蠶兒の性質に鑑み食桑状態に照し適期に適量を與ふるを肝要とす、而して一般養蠶家の行ひつゝあるが如き形式的給桑即ち一定回數及一定分量を目標とする方法は發育經過迅速なる一代雜種に對しては不適當なる場合多きは當然の理なり、之故に給桑に際しては第一蠶兒の食慾状態に着眼し然る後に温湿度及蠶座乾濕の状態等を對照して給桑の時期を認定し適宜其分量を加減して遺漏なきを期するにあらざれば動々もすれば桑不足の弊に陥り易し、飼育者たるもの茲に特別の注意を要す。(ロ)分箔及除沙の注意 蠶座の面積は蠶兒の呼吸食桑及び發育に支障なき程度を常に保たしむるを要す、特に一代雜種は其成長率大に而も頗る迅速なるが故に在來種に比し幾分廣き加減を要す、就中雜蠶期中に於て特に發育速かなるを以て擴座を怠るべからず、此期間に於ける適當なる面積は凡そ蠶體の四五倍にして壯蠶となるに従ひ其割合を遞減し五齡に至りては凡そ一倍位なり、除沙は蠶座の清潔と乾燥を計るに缺くべからざる手段にして蠶兒の幼稚なる時期より壯蠶となるに及び漸次回數を増すの要あり、且つ天候不良なるか桑葉善良ならざる場合は勿論其他の常時に於ては除沙以外蠶種の清潔を保つ手段として雜蠶期は粗糠を壯蠶期には切藁を時々給桑前蠶座上に撒布するを可とす。(ハ)温湿度及換氣上の注意 飼育上適當なる温度は華氏七十五度乃至八十度なり、然るに秋蠶期に於ては多くは高温勝なるを以て雜蠶期にありては特に冷涼なる室を撰び其他の時期に於ても日覆撒水又は戸障子の開閉等に種々工夫を凝らして可及的溫度の上昇を防ぐの手段を講ずるを要す、一代雜種は在來種

に比較し發育經過速なる丈けそれ丈け深く此點に注意する事肝要なり、飼育中濕氣の適度は温度の高低により勿論異なるべきものなれども乾濕兩球示度の差を以て示せば概ね五度乃至八度の間とす、一代雜種は在來種に比し室内空氣の排濕に對し一層の注意を必要とす、蠶室内の空氣は常に清新なるを要するは勿論なりと雖換氣の手段に就ては大に工夫する所なかるべからず、即ち日中高温乾燥の場合に於て通風を自由ならしむる時は徒に室内温度を上昇し加之桑葉の枯凋を速かならしめ自然蠶兒をして食桑不足に陥らしむるの弊あるを以て斯る場合に於ては特設の換氣装置に據りて除々に不斷の換氣を促し戸障子を開放せざるを可とす、之に反して所謂蒸熱の場合又は夜中其他の濕潤勝の場合に於ては可及的室内空氣の更新と乾燥と兼ねて冷却を促す爲め戸障子を開放して通風を自在ならしむべし。(二)上簇の注意一代雜種は兩親の何れよりも發育速なるもの多く加之經過頗る齊一なるを普通とす、故に催熟及び營繭從ひて齊一なるものなれば上簇の際不知不識過熱に陥らしめ同功繭歩合を多からしむるの弊尠なしとせざるを以て在來種に比較し稍早き加減に上簇せしむるを可とす、又此種は繭形大にして繭綿多く勢ひ營繭面積の廣きを要するは理の當然なるを以て上簇頭數は概ね尺坪に對し三十五、六頭とし多くも四十頭を以て限度とすべし、而して簇中濕度は華氏七十五度を下らざる範圍に於て低きを可とし通風を自在ならしめ排濕に努むべし。

催青日數及温濕度

種別	催青日數	温濕度		
		催青度	中濕度	平均度
青熟	1108	76	76	82
中熟	1100	76	76	79
大原一號	1101	76	76	79
龍圓	1104	75	76	78
大白蠶	1100	76	76	79
國蠶支二號	1100	76	76	79
國蠶日一〇六號	1100	76	76	83

蠶兒各齡經過表

種別	各齡經過					全齡	蛹期間	飼育中平均	
	一齡	二齡	三齡	四齡	五齡			温度	濕度
青熟	408.5	310.0	404.5	511.5	605.0	2401.5	1106	77	84.6
中熟	408.5	318.0	400.0	420.0	522.5	2310.0	1116	79	80.4
大原一號	409.5	319.0	400.0	409.0	602.5	2318.0	1115	78	82.1
龍圓	406.0	315.0	400.0	413.0	600.0	2310.0	1117	77	80.0
大白蠶	410.0	310.0	405.0	509.0	603.0	2310.0	1113	77	80.0
國蠶支二號	405.0	315.0	407.0	410.0	509.0	2310.0	1110	77	84.5
國蠶日一〇六號	404.0	319.0	404.0	515.0	506.0	2300.0	1110	76	84.3

蠶兒各齡平均温濕度

種別	一齡		二齡		三齡		四齡		五齡		全齡	蛹期間
	溫度	濕度	溫度	濕度	溫度	濕度	溫度	濕度	溫度	濕度		
青熟巢	七七	八三	七八	八二	七八	八三	七八	八四	七八	八四	七七	七九
中原一號	七七	七九	七七	八二	七六	八〇	七六	八〇	七七	八〇	七七	七八
龍圓	七五	八三	七六	八〇	七九	八二	七九	八三	七八	八三	七七	七八
大白蠶	七七	八三	七六	八〇	七九	八二	七九	八三	七八	八三	七七	七八
支二號	七七	八三	七六	八〇	七九	八二	七九	八三	七八	八三	七七	七八
日一〇六號	七七	八三	七六	八〇	七九	八二	七九	八三	七八	八三	七七	七八

收繭調查表 (對蟻量一匁)

種別	普通繭		屑繭		同功繭		計		同功繭	
	溫度	濕度	溫度	濕度	溫度	濕度	溫度	濕度	溫度	濕度
青熟巢	二七〇	三四	二七〇	三四	二七〇	三四	二七〇	三四	二七〇	三四
中原一號	二五〇	三〇	二五〇	三〇	二五〇	三〇	二五〇	三〇	二五〇	三〇
龍圓	二七五	三二	二七五	三二	二七五	三二	二七五	三二	二七五	三二
大白蠶	二五五	二二	二五五	二二	二五五	二二	二五五	二二	二五五	二二
支二號	二五五	二二	二五五	二二	二五五	二二	二五五	二二	二五五	二二
日一〇六號	二五五	二二	二五五	二二	二五五	二二	二五五	二二	二五五	二二

繭質調查表

種別	對上繭一升		對上繭百顆		同上百分率		絲長	纖維度
	重量	顆數	繭層	蛹體	繭層	蛹體		
青熟巢	九三	一八三	七〇八	三九三	一五〇六	八四九四	五八八	二七二
中原一號	九三	二〇九	六六五	三九三	一四八〇	八五二〇	五九二	二六三
龍圓	九〇	一八〇	七三一	三九三	一五〇九	八四五一	六二	二五七
大白蠶	八九	一七六	六九九	三九三	一四九八	八五〇二	六〇〇	二四〇
支二號	八六	二〇〇	六四〇	三九三	一四五一	八五〇九	五六七	三〇〇
日一〇六號	九二	二二七	五六〇	三六〇	一三四五	八六五五	五八五	二八二

一代雜種催青日數及溫濕度表

種別	催青日數		溫濕度	
	♀	♂	青	中
龍圓	二二八	二二〇	七七六	七七五
大白蠶	二二八	二二〇	七七六	七七五

一代雜種蠶兒經過表

種別	一齡	二齡	三齡	四齡	五齡	全齡
♀						
♂						

一代雜種各齡平均温濕度表

龍圓	大白蠶	龍圓	大白蠶
四〇五	四〇五	四〇五	四〇五
三二五	三二五	三二五	三二五
四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇
四二二	四二二	四二二	四二二
六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇
三二五	三二五	三二五	三二五

一代雜種收繭調査表 (對蠶量一匁)

種別	一齡	二齡	三齡	四齡	五齡	全齡
龍圓	七七度	七六度	七九度	七七度	七六度	七五度
大白蠶	七七度	七六度	七九度	七七度	七六度	七五度
龍圓	八三八%	八六六%	八三三%	八五二%	八三七%	八四四%
大白蠶	八三八%	八六六%	八三三%	八五二%	八三七%	八四四%

一代雜種繭質調査表

種別	普通繭	屑繭	同功繭	計	同上百分率	同功率
龍圓	二八六	三四五	四〇五	三六〇	七九	一〇
大白蠶	二八六	三四五	四〇五	三六〇	七九	一〇
龍圓	二九五	二二六	四三〇	三九一	八二	六
大白蠶	二九五	二二六	四三〇	三九一	八二	六

一代雜種繭質調査表

種別	對上繭一升	對上繭百顆	同上百分率	絲長	織度
龍圓	九〇	七〇五	一五八〇	六五一	二五二
大白蠶	九〇	七〇五	一五八〇	六五一	二五二
龍圓	九三	七一〇	一五八四	六七五	二六一
大白蠶	九三	七一〇	一五八四	六七五	二六一

◎原蠶種配付規程

- 第一條 本縣立原蠶種製造所及支所ニ於テ製造シタル蠶種ハ原蠶種トシテ無償ヲ以テ本縣在住ノ蠶種製造者ニ配付ス
- 但試驗ノ爲メ必要ナル原蠶種ノ交換ヲナシ又ハ國、地方公共團體其他ノ經營ニ係ル學校講習所、試驗場ニ對シテハ特ニ配付スルコトヲ得
- 第二條 配付スベキ原蠶種ノ名稱及數量ハ豫メ之レヲ告示ス
- 第三條 原蠶種ノ配付ヲ受ケントスルモノハ翌年ノ飼育ニ供用スルモノヲ毎年六月二十日迄ニ第一號様式原蠶種配付願書ヲ住所地所屬區域ノ所長又ハ支所長ニ差出スベシ但シ願書ヲ差出シタル後ハ其ノ取消又ハ數量ヲ變更スルコトヲ得ス
- 第四條 原蠶種ノ配付ハ其ノ數量ヲ定メ十月末日迄ニ通知ス但シ其ノ請求額配付豫定數量ヲ超過スル時ハ數量ヲ減シ又ハ配付ヲナササコトアル可シ
- 第五條 原蠶種ノ配付ヲ受ケタルモノハ第二號様式ニヨリ春蠶ニアリテハ七月末日迄ニ其ノ成績報告書ニ其乾繭五合ヲ添ヘ住所地所屬區域ノ所長又ハ支所長ニ差出スヘシ
- 第六條 原蠶種ノ配付ヲ受ケタルモノハ其ノ原蠶種百蛾ニ對シ二千蛾以上ノ蠶種ヲ製造スルコトヲ要ス但第一條ノ但書ニ依リ配付ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニアラス

龍圓	大白蠶	龍圓	大白蠶	龍圓	大白蠶	龍圓	大白蠶	龍圓	大白蠶	龍圓	大白蠶	龍圓	大白蠶	龍圓	大白蠶	龍圓	大白蠶	龍圓	大白蠶
四〇五	四〇五	三二五	三二五	四〇〇	四〇〇	四二二	四二二	六〇〇	六〇〇	二二五	二二五	三二五	三二五	四〇〇	四〇〇	四二二	四二二	六〇〇	六〇〇
四〇五	四〇五	三二五	三二五	四〇〇	四〇〇	四二二	四二二	六〇〇	六〇〇	二二五	二二五	三二五	三二五	四〇〇	四〇〇	四二二	四二二	六〇〇	六〇〇

一代雜種各齡平均温濕度表

種別	一齡		二齡		三齡		四齡		五齡		全齡
	温度	湿度	温度	湿度	温度	湿度	温度	湿度	温度	湿度	
龍圓	七七	八三	七六	八三	七七	八三	七六	八三	七六	八三	七七
大白蠶	七七	八三	七六	八三	七七	八三	七六	八三	七六	八三	七七

一代雜種收繭調査表 (對蠶量一匁)

種別	普通繭		同功繭		計	同功繭	
	繭量	繭率	繭量	繭率		繭量	繭率
龍圓	二八〇	三四五	四〇五	三六〇	三六〇	七九	一〇
大白蠶	二八〇	三四五	四〇五	三六〇	三六〇	七九	一〇

一代雜種繭質調査表

種別	對上繭一升		對上繭百顆		同上百分率		絲長	織度
	繭量	繭數	繭層	繭體	繭層	繭體		
龍圓	九〇	一八〇	七〇	三七六	一五八	八四二	六五	二五
大白蠶	九〇	一八〇	七〇	三七六	一五八	八四二	六五	二五

◎原蠶種配付規程

- 第一條 本縣立原蠶種製造所及支所ニ於テ製造シタル蠶種ハ原蠶種トシテ無償ヲ以テ本縣在住ノ蠶種製造者ニ配付ス
但試驗ノ爲メ必要ナル原蠶種ノ交換ヲナシ又ハ國、地方公共團體其他ノ經營ニ係ル學校講習所、試驗場ニ對シテハ特ニ配付スルコトヲ得
- 第二條 配付スベキ原蠶種ノ名稱及數量ハ豫メ之レヲ告示ス
- 第三條 原蠶種ノ配付ヲ受ケントスルモノハ翌年ノ飼育ニ供用スルモノヲ毎年六月二十日迄ニ第一號様式原蠶種配付願書ヲ住所地所屬區域ノ所長又ハ支所長ニ差出スベシ但シ願書ヲ差出シタル後ハ其ノ取消又ハ數量ヲ變更スルコトヲ得ス
- 第四條 原蠶種ノ配付ハ其ノ數量ヲ定メ十月末日迄ニ通知ス但シ其ノ請求額配付豫定數量ヲ超過スル時ハ數量ヲ減シ又ハ配付ヲナササコトアル可シ
- 第五條 原蠶種ノ配付ヲ受ケタルモノハ第二號様式ニヨリ春蠶ニアリテハ七月末日迄ニ其ノ成績報告書ニ其乾繭五合ヲ添ヘ住所地所屬區域ノ所長又ハ支所長ニ差出スヘシ
- 第六條 原蠶種ノ配付ヲ受ケタルモノハ其ノ原蠶種百蛾ニ對シ二千蛾以上ノ蠶種ヲ製造スルコトヲ要ス但第一條ノ但書ニ依リ配付ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニアラス

第六條ノ二 原蠶種ノ配付ヲ受ケタルモノハ天災其他止ムヲ得サル事由ニ依リ第五條前條ノ義務履行スル能ハサル時ハ住所地所屬區域ノ所長又ハ支所長ニ申告シ其ノ承認ヲ受クヘシ

第七條 原蠶種ノ配付ヲ受ケタルモノハ前條ニヨルノ外他ニ轉用讓渡又ハ交換廢棄スルコトヲ得ス

但住所地所屬區域ノ所長又ハ支所長ノ許可ヲ受ケタル場合ハ本縣在住ノ蠶種製造者ニ限り無償ヲ以テ讓渡ヲナスコトヲ得

第八條 第五條第六條又ハ第七條ニ違背シタルモノハ配付ヲ受ケタル原蠶種百蛾ニ對シ金參圓ノ割合ヲ以テ辨償セシメ尙爾後一箇年間其ノ配付ヲ停止ス

附 則

第九條 本規程ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○第一號様式

原蠶種配付願

一、化 性	名 稱	數 量
一、掃立時季 (春秋別)		
一、蠶種製造豫定	特別蠶種 普通蠶種	枚蛾

右原蠶種配付規程ヲ遵守シ大正 年ニ於テ製造スヘキ蠶種ニ供用致度候間御下付相成度此段相願候也

年 月 日

郡市町村番地

氏

名 印

原蠶種製造所長又ハ支所長宛

○第二號様式

大正 年(春秋)期飼育配付蠶種成績

郡市町村番地

飼育者

氏

名 印

一、蠶種ノ名稱

一、掃立月日

一、上簇月日

一、蟻量一匁ニ對スル收繭量(重量)

一、蠶種製造高

特別蠶種
普通蠶種

枚蛾

一、掃立ヨリ收繭ニ至ル迄ノ狀況概要

右報告候也

右

年 月 日

氏

名 印

備考

原蠶種製造所長又ハ支所長宛

收購量ハ上繭、中繭、下繭、同功繭ニ區分スヘシ

大正六年一月十五日印刷
大正六年一月十五日發行

岐阜縣立原蠶種製造所
大井支所

印刷人 河田貞次郎

岐阜縣安八郡大垣町大字郭一五三番戶
西濃印刷株式會社代表者

印刷所 西濃印刷株式會社
岐阜支店

岐阜縣岐阜市七軒町二五四番地

327
922

終

